

県指定

所在地：町之田

いけじりじんじゃ
あやつりにんぎょうのくび

池尻神社操り人形の首

池尻神社において奉納される人形狂言に使用する^{かしら}頭で、じじ、ばば、稲田姫、祢宜、八重垣の5体がある。八重垣、祢宜の頭髪はかつら、他の3体は植毛である。胴串の角度やカマ木から一人遣い（現在は3人及び2人で使用）の系統に属し、古浄瑠璃から文楽人形に移る過渡期の様相を留めている。ばばの首以外は、いずれも安永年間（1772～81）以前に製作されたと推定されている。

池尻神社には古くから明神講があり、この講組織がこれらの人形を使い「神変応護桜」の演目を奉納していた。現在は池尻人形狂言保存会が継承するとともに、人形を保護伝承している。

